

城北埼玉中学校

算数

全分野から偏りなく、基本レベルから応用レベルの問題まで幅広く出題しています。計算力、図形の基本的な性質（面積・体積、辺の長さの比と面積の比の関係など）を見抜く力、文章題を理解する力を求めています。近年は「説明を書く問題」も出題しているので、算数に登場する用語を正しく理解するようにしてください。また、作図が出題されることがあるので、定規・コンパスの使い方にも慣れておきましょう。多くの問題は標準的なものなので、塾のテキストで演習を繰り返すことで十分に合格する力をつけられると思います。

国語

文章問題が2題あり、ほかは漢字の読み書きです。文章がやや長く、また設問に紛らわしい選択肢があるため、短時間で文章を読み、内容をつかむことが要求されます。といっても、特別なことをするのではなく、文章をていねいに読み、作者・筆者の訴えていることを正確に読み取る練習をしてください。また、自分の意見を述べる50字程度の記述問題も出題しています。ここでは、自分の考えをわかりやすく表現する力を求めています。

理科

4分野からまんべんなく出題し、配点は4分野均等です。知識を問う問題だけでなく、計算力・思考力を問う問題もあります。実験に関する問題では、得られたデータを処理する能力や、問題文を理解する読解力が必要です。実験の目的と方法、その結果からわかることなどを、きちんと理解する力を求めています。

社会

3分野とも、ほぼ同じ配分で出題します。記号選択と用語記述のほかに、短文記述（20字前後まで）も出題することがあります。受験生の読解力・思考力を問うため、分野にまたがる総合問題・融合問題とともに、地図・写真・グラフ・資料の読み取りの問題も出します。用語の解答は、ほとんどが漢字指定となっているので、内容の理解だけでなく、正確な書き取りが要求されます。また、時事問題も多くあります。ふだんから新聞やニュースなどを通じて、世の中の出来事に関心を持つようにすれば対策は可能です。なお、3分野の融合問題を出題するのは第1回入試のみです。

英語

使用する語彙や英文のレベルは英検®4級および3級程度です。大問¹では適語選択問題を20問、大問²では語句整序問題を10問、大問³では空所補充問題を5問、大問⁴と大問5では長文読解問題を出題します。長文問題では内容把握選択問題のほか、内容に関する英語の質問に英語で答えるという形式の出題もあります。語彙だけではなく、基本的な文法の知識や思考力も求められます。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

大妻嵐山中学校

算数

【一般入試・まなび力入試】大問は4題程度です。各大問には小問2～10問があり、合計25問を出題します。大問①は、中学数学を学んでいくうえで不可欠な計算力を問う問題です。小数や分数の計算を含むので、決まりに従って正確に答えを導き出す練習をしてください。大問②からは、さまざまな分野で必要となる基本的な考え方を、きちんと理解しているかどうかを見る問題です。特に後半では、文章題や規則性を見つける問題、グラフを読み取る問題、図形問題などで、思考力・応用力を問います。全体的に難問・奇問というレベルではないので、日ごろから問題文をよく読んで、解き方の道筋を正しく順序立てて考える訓練をしておいてください。

【大妻特待入試】大問として10題程度を出題します。この入試では、全問途中式や考え方も解答用紙に書いてもらいます。全体的に難問・奇問はなく、数の性質、図形、文章題など各分野からバランスよく出題します。一つの単元をきちんと理解し、応用問題を解く力もつけておくとよいでしょう。

国語

いずれの入試でも、語句問題・説明的文章・文学的文章の三つの大問を出題します。語句問題では、漢字の読み書き、ことわざ・慣用句、類義語・対義語、四字熟語、語句の意味、文法の知識などを問います。大妻特待入試では、短歌や俳句に関する問題も出題します。説明的文章の読解には論理的思考力が必要となるため、長めの文章に読み慣れ、結論や要点をつかむ練習が必要となります。文学的文章では、場面設定や登場人物の心情などについて読解し、考えを表現する力を問います。いずれの文章でも、本文をていねいに読解し、問われていることに正しく答える力や、本文に即して筆者の主張や登場人物の心情を理解し、説明する力が求められます。

理科

大問は4題で、各大問には小問5問程度があります。大問は生物・化学・地学・物理の順で、それぞれの分野から出題しますが、複数の分野にまたがる複合的な問題もあります。小学校で学習した内容について、実験結果や図表・グラフなどを分析する論理的思考力を問うものとなります。教科書に出てくる基本的な用語はもちろん、実験の方法や実験の結果などもしっかりと学習しておきましょう。科学的なものの考え方を身につけていくためにも、ふだんから興味・関心を持って自然を観察し、疑問に思ったことを調べようとする姿勢を養ってください。

社会

地理・歴史・公民の各分野の基本的知識を、どの程度身につけているかを確認する問題を出題します。各分野からの出題を通して、①社会のしくみ、歴史、地理に関する基礎的な知識、②それらの知識や情報を用いて、社会的な事象について理解する力、③日々変化する社会情勢に興味・関心を持ち、それらについて考える姿勢、④理解したことや考えたことを説明す

る力、があるかどうかを問います。過去問などを使って、さまざまな問題演習に取り組みましょう。また、統計・グラフ・図表などを読み取る練習もおきましょう。

国府台女子学院中学部

算数

出題形式については昨年度と同じです。易しい問題を解くときもていねいに計算し、見直しの時間を取るなどして、正確に答えを求められるようにしてください。特殊算の代表的な解法は習得しておきましょう。また、図形やグラフの問題については、演習問題や過去問をたくさん解いてください。

国語

推薦入試は小問集合のみですが、短い文章からの出題があります。第1回・第2回入試は、長文問題1題（説明文か文学的文章）と小問集合になります。知識を問う小問ほどの入試でも比重が高いため、よく勉強しておきましょう。漢字・熟語、慣用句・ことわざ、正しい文章表現、短文作りなどに加え、「ヒントに沿って考える力」を見る問題も出題する予定です。

理科

推薦入試は4分野（生物・化学・地学・物理）からの小問集合と、生物・地学・物理の各分野の大問を出題します。第1回・第2回入試は、大問5題（小問集合と、生物・化学・地学・物理の各分野の大問）になります。知識問題や計算問題を含めて、基礎から応用まで幅広く出しますので、問題文や実験データをよく読み取り、法則や規則を見つけられるような練習をしておくといでしょう。

社会

出題傾向は例年並みです。時事的な問題も出題するので、新聞・テレビのニュースなどに興味・関心を持つようにしてください。また、世界にも目を配る一方、日本各地の気候・風土や、各種の産業、統計資料などもよく勉強しておいてください。

和洋国府台女子中学校

算数

計算・穴埋め一行問題が 6～7 割程度、文章題・数量関係・図形など応用問題が 3～4 割程度です。解答を出すための考え方や、理由を記述する問題が一部にあります。計算・穴埋めを早く正確に解き、後半の応用問題に取り組むための時間配分に注意しましょう。

国語

長文読解（文学的文章・説明的文章）、表現力・言語能力を測る作文や長文記述、漢字・語彙・文法・国語基礎知識などを出題します。テクニックだけに走らないでいねいな読み取りや、経験に基づく発想力なども必要です。問いを順に解き進めることで長文全体の主題が理解できるように問題作成をしています。

理科

割合は、物理・化学分野が約 5 割、生物・地学分野が約 5 割です。観察や実験の結果を問う問題、グラフや表を読み取る問題、理由やしくみを記述する問題、ニュースなどで話題になった科学の時事問題など、いろいろな形式の問題を意識して出題するようにしています。

社会

地理・歴史が各 4 割程度、政治と国際社会が 2 割程度の出題です。資料あるいは知識をもとに、記述で解答する問題があります。都道府県名や人物名・用語は、教科書に漢字で表記されているものについては、正しい漢字で書けるように勉強してください。

英語

リスニング問題とリーディング問題はそれぞれ約半分の割合で出題します。日常で起こりうる状況や図表などから考える問題があります。難度は従来どおり、英検®4 級から 3 級程度のレベルです。「いつどこで誰が何をしたか」を意識して問題に取り組みましょう。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

市川中学校

算数

大問は 5 題程度で、解答時間は 50 分です。自分が解きやすい問題を把握して、時間配分をしてください。計算問題や基本問題から、図形やグラフ、読解力を問う問題も出題しています。問題文を正確に読み取り、論理的に答えを導き出す力、規則性を見る力、式・図形を見る力、計算力を確かめたいと考えています。

国語

「文学的文章」「説明的文章」「漢字に関する問題」の問題構成です。文章の難度は例年あまり変わりません。時間配分に注意して、正確に、かつスピーディーに読解し、解答することが大切です。100 字以下の記述問題を何題か出題します。記述問題は答えるべき要素が入っていれば部分点を与えるので、あきらめないでください。

理科

広い分野からの出題を心がけています。大問は 4 題で、物理 1 題、化学 1 題、生物 1 題、地学 1 題という構成です。基本的な理解ができていることを問う問題が半数を占めます。パターン学習に走らず、しっかり基本を身につけてください。計算問題、用語を問う問題、論理性を問う問題を出題します。記述問題も出題しますが、そこでは採点者に伝わる正確な語で、わかりやすい説明をすることを求めています。標準レベルの問題の出来具合が決め手となるでしょう。

社会

第 1 問歴史（古代～近世）、第 2 問歴史（近代・現代）、第 3 問地理、第 4 問公民の構成です。時間配分に気をつけて、できる問題から解いてください。記述問題は、何が問われているのかをしっかりと把握（メインとなる問いは何か、付随する条件は何か）し、それに「応え」るように「答え」てください。単純な記号選択問題はありません。正誤問題や時代順並び替え問題などで出題されますので、「幅広く」「正確な知識」を身につけておいてください。

江戸川学園取手中学校

算数

大問は6題です。計算問題や文章題、図形問題など幅広い分野から出題し、思考力を問うものがやや多くなります。コンパス・定規・分度器は必要ありません。記述を求めるものも出題します。

国語

文章問題を2題出題します。漢字の書き取りは文章問題のなかで、1割程度の配点で出題します。ことわざ・慣用句、語句の意味なども数問あります。文学史の問題はありません。また、100字程度の記述問題も出ます。

理科

4分野から大問4題を出題します。実験・観察を表す図・文章・表・グラフを見て解く形式で、各分野からまんべんなく出題しています。形式は、選択式のほかに適語記入、計算、作図やグラフの読み取りなどがあります。近年は、記述力や思考力を試す問題にも力を入れています。

社会

地理分野は日本地理を中心に、世界地理も出題します。歴史分野は各時代から出し、公民分野は時事問題もあります。なお、漢字指定の問題があるため、漢字で書くべき事柄は漢字で書けるようにしておきましょう。思考力を重視した問題も出題します。

英語

[5科目型・適性型] 出題レベルは、公立小学校の検定教科書レベルです。問題はすべて放送によるリスニング形式です。身近なものを表す英単語（動物・食べ物・曜日・月・数字など）を中心に、英単語のスペルを問う問題はありません。小学校の英語の授業にきちんと参加していれば、基本的に問題ありません。

[英語型] 出題レベルはCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）でA1からA2程度、実用英語検定で3級から準2級程度となります。ただし、マーク形式ではなく、選択式と記述式を併用します。内容は、語彙・文法・作文・長文読解などです。リスニング問題も含まれます。言語としての英語の知識だけでなく、論理的に物事を考える力や、コミュニケーションツールとして英語を活用できる力も試します。

適性型 A

大問は主に国語と社会を中心として3題出題します。複数の資料を読み解く力や文章を読んで自分の考えを書く力を問う問題を出題します。論述問題が中心となるので、表・グラフ・地図を解釈する能力を高めるとともに、自分が伝えたいことを明確に伝える表現力も養成するようにしてください。

適性型 B

理数的な総合問題を出題します。与えられている情報を整理し、公式や現象につなげられる発想力や、それを表現できる思考力が特に求められます。解答に当たっては問題文をしっかりと読むようにすることがポイントです。

※2024 年度入試から、「5 科目型 (国・算・社・理・英)」と「英語型 (国・算・英)」、「適性型 (適性型 A・適性型 B・英・面接シート)」の受験型からの選択となります。なお「適性型」は適性型入試 (12 月 16 日実施) と第 2 回入試 (1 月 25 日実施) のみとなります。

大宮開成中学校

算数

基礎知識・計算力・図形処理能力・読解力・論理的思考力を重視する問題構成です。大問7題構成で、大問①は「計算問題」、大問②は「特殊算の小問」、大問③は「図形の小問」です。ここまでを落とさないことが合格の鍵です。また大問④～⑦は文章題で、「割合や比の問題」「考える問題」「速さに関する問題」「図形を利用した問題」などを出題します。文章題を1題でも多く解答できると、高得点が狙えます。

国語

大問3題構成で、どの大問にも思考力を問うものを織り込み、文章読解力と表現力を見ます。大問①は「国語知識・グラフの読み取り」です。漢字の書き取りでは、「とめ・はね・はらい」を正確に書きましょう。グラフの読み取りでは、的確に情報を引き出して表現できるかどうかを問います。大問②の「論説文」では、語句や文の補充、指示語の内容指摘、本文内容理解について問います。大問③の「物語文」では、登場人物の心情や人物像、表現の特徴などについて問います。すべての問題を最後まで解き切れるよう、どの問題から取り組むかを工夫し、時間を計って演習に取り組みましょう。

理科

生物・物理・地学・化学の4分野からまんべんなく出題し、基礎知識だけでなく、文章やグラフの読解力、計算力を問います。“見慣れない”題材も出てきますが、資料をきちんと読み取り、論理的に考えられれば解答できる内容です。大問4題構成で、①～④はそれぞれ生物・物理・地学・化学の各分野の問題になっています。特に②の物理と④の化学では計算力を要するので、スピードをつける練習をしてください。出題傾向は変わらないので、本校の過去問題を使った練習が役立つでしょう。

社会

地理・歴史・公民（論述問題を含む）の3分野から基本的な知識を問います。地理分野では日本の自然や農業・産業などについて、地図や統計資料から問います。歴史分野では「いつどこで誰が何をした」にとどまらず、原因や理由、影響を簡潔に述べてもらいます。また、資料や写真の確認も必須です。公民分野では、憲法や政治・経済の仕組みなどの基本事項のほか、最後の論述問題（50字）では、新聞やニュースで取り上げられた時事的な事柄について、自分の意見や、さまざまな立場からの意見を述べる力が必要です。問題量が多いので、どの大問から取り組むかを工夫しましょう。

開智中学校

算数

途中の考え方を聞く問題も一部出題します。すべての入試で小問集合があります。早く正確に計算ができるように、日ごろから繰り返し練習をしておきましょう。すべての入試で文章をしっかりと読んで答える問題があります。ていねいに読み、意図を理解して解けるようにしましょう。また、明確な入試問題傾向がありますので、過去問題を解いて傾向をつかみ、対策することが非常に大切です。

国語

基礎力をしっかり身につけましょう。漢字の知識を増やしてください。また、自分の知らないことばや語句に触れたときは、辞書で調べるようにしましょう。たくさんのことばを知ることが、表現力を豊かにすることにもつながります。次に、自分の書いた文章は必ず読み返しましょう。そうすれば、主語・述語の関係や「てにをは」の間違いに気づきます。また、文章を比較して、どの文章がどんな立場からの意見を述べているか、考えながら読んでいきましょう。

理科

基本的には、各分野からまんべんなく出題する予定です。基礎的な知識を問う問題はもちろんですが、リード文を正しく読み取る力や、データを読み取ってグラフを描く力を見る問題、複雑な計算問題などもあります。また、知識と思考力の両方が求められる総合的な問題もあるので、応用問題への対策も欠かさずやっておいてください。時間配分を考えて、解ける問題から解いていきましょう。

社会

まず、基礎固めを心がけてください。きちんと知識が定着するまで繰り返し復習することが重要です。また、自分で説明する問題では、基礎的な内容をしっかりと身につけたうえで、その知識を使って考えることが正解につながります。地理・歴史・公民分野からほぼ同じ割合で出題するので、不得意分野をつくらないことも大切です。過去問題をしっかりと解いておくと、傾向もつかみやすいと思います。

春日部共栄中学校

算数

大問 6 題を出題します。①は計算問題 5 問です。分数の計算を正確にできるようにしておきましょう。またさまざまな単位換算を理解しておきましょう。②はさまざまな分野の小問集合 3 問です、時間配分に注意が必要です。③は点や辺が動いてできる図形について、長さや面積などを求める問題と、回転体の問題です。図形の動く様子をとらえられるようにしておきましょう。④は数え上げて法則を見つける問題で、少し時間をかければ得点しやすい内容となっています。⑤はグラフを読み取る問題です。グラフをうまく活用できるようにしましょう。⑥は定義演算の問題です。必ず例が与えられているので、そこから演算の意味を読み取れるようにしておきましょう。出題内容に大きな変更はありませんので、過去問をしっかり解くことが大切です。

国語

大問 4 題を出題します。①は漢字問題、②は説明的文章の読解問題、③は物語的文章の読解問題、④はグラフや表を読み取り、表現する問題です。①の漢字問題は漢字検定 5 級と 4 級の漢字から書き取りを 7 問、読みを 3 問出題します。②と③では、文章を読み、理解したうえで考え、表現する力を問います。問題文中より、文法・語彙の問題も出題します。④では、グラフや表から読み取った内容を考え、それを文章で表現できるかが問われます。内容を読み取る練習とともに、誤った表現・表記のない、わかりやすい文章を書く練習もしておくといよいでしょう。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問 4 題を出題します。四つの大問はすべて必答となっており、各分野とも、基礎と応用を問う問題で構成されています。基礎力をしっかりと身につけることが何よりも重要ですが、身近な現象から発展させた事象を問う問題もあります。図や表、文中の文言から関連・関係を読み解く練習や、文中のキーワードを見つけ、わかりやすくまとめる練習をしておきましょう。

社会

大問は 3 題です。①は地理分野 (20 点) で、日本の地形・気候・農業・工業・都市が出題の中心となります。特に地形図を扱った問題は必ず出題するので、その見方を確認しておきましょう。②は歴史分野 (20 点) で、各時代の特徴をしっかりとつかみ、歴史の流れを理解しておくことが重要です。また、史料や写真を使った問題も多いので、資料集や参考書に載っている史料や写真に目を通しておくといよいでしょう。③は公民分野 (10 点) で、憲法や人権、環境に関する問題が中心となります。全体の傾向には大きな変更がないので、過去問をしっかりと解くことがいちばんの対策となります。

光英 VERITAS 中学校

算数

大問は 6 題（小問合計 16～20 問）で、解答用紙は答えのみを記入する形式です。ただし、特待選抜入試では、考え方や途中計算を記述する問題も出題します。試験時間は 50 分で、100 点満点です。大問【1】は計算問題で小問は 3～4 問、大問【2】は穴埋め問題で小問は 5 問です。大問【3】以降は標準・応用問題です。速さ・時間・道のりに関するグラフの読み取り、平面図形・立体図形などが頻出となっています。特殊算も出題しているので、さまざまな問題について解き方を習得しておきましょう。計算力と基礎・基本をしっかり身につけ、数学的な思考力・洞察力を磨いてください。

国語

大問は 4 題あります。まず、大問【一】【二】は漢字の読み書きの問題で、四字熟語など漢字の知識に関する問題も出題します。次は、説明的な文章における読解力や思考力を問う問題です。論理的な展開や筆者の主張・内容を理解できているか、キーワードに着目して、わかりやすく表現できるかを確認していきます。自分の意見を書く問題も出題します。最後に、新聞のコラムを 100 字で要約する問題を出します。時事問題や社会の様子に興味を持ち、コラムなどの文章に触れておくことが大切です。書かれているテーマや主張について理解し、論理的な文章構成で表現していく力が必要となります。

理科

大問は 4 題あり、物理・化学・生物・地学の 4 分野から均等に出題します。生物分野は、植物の光合成とからだのつくり、動物の呼吸、消化・吸収、分類などから出します。多くは知識を問う問題です。化学分野は、気体の発生と性質、水溶液の性質、溶解度と再結晶などです。難度の高い問題では、再結晶の量などの計算を出題することが多くあります。物理分野は、ふりこ、シーソー、電流の回路、光と音などです。シーソーなどに代表されるように、論理的な思考の積み重ねで答える問題が少なくありません。地学分野は、流水と地層、火山の特徴、地震の波、気温と湿度、前線と雲の関係、星座の動きなどから出題します。知識を問うものが半分、論理的思考力を問うものが半分という配分です。

社会

大問は 3 題構成で、それぞれに地理・歴史・公民を織り交ぜて出題します。割合は、地理が約 3 割、歴史が約 5 割、公民が約 2 割です。基本的な知識や理解力に加えて、思考力・表現力・読解力を問います。ふだんの学習では資料や統計などに触れ、用語などは漢字で覚えるようにしましょう。歴史分野では、古代から現代までの流れをつかみながら学習してください。資料の読み取りや記述問題も出題します。語句を暗記するのではなく、出来事の時代背景や影響も説明できるようにしましょう。地理・公民分野では、重要語句だけでなく、地図やグラフを読み取る力も問います。ふだんから日本と世界の結びつきに関心を持ちましょう。ただ暗記するのではなく、物事を分析しながら学習することが大切です。

理数

算数は定型的なパターン問題だけでなく、基本からきちんと考える力があるかを試す問題も出題しています。単純な計算問題は出題しません。標準～応用レベルの1～2行程度の文章題に続き、図形に関する問題と思考力問題を出題します。答えを導くまでの考え方や式を書く問題もあります。理科では物理分野または化学分野で、計算を伴う問題を出題します。

英語

「Reading」「Writing」「Listening」「Communication」の4技能を測るテストで、学習到達レベルは英検®3級～準2級程度です。英問英答、内容真偽、単語の語形変化、概要把握などを問う長文問題、質問に対する意見とその理由を述べる自由英作文のほか、動画を視聴し、内容を問う書き取り問題と、個別のコミュニケーションテストがあります。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

埼玉栄中学校

算数

出題形式は例年どおりで、基本的な計算問題も出題しています。文章題では、濃度、割合、速度、整数の性質、比などの学習をしておいてください。また、面積・体積の問題もしっかり解けるようにしてください。部分点は基本的にありませんが、思考力を問う問題も一部出題する予定です。

国語

文章読解は説明的文章と文学的文章（小説）の2題です。説明的文章は段落の吟味、語句の意味、接続詞などが問われます。文学的文章は心理描写の把握が中心です。慣用句、表現技法にも注意しましょう。漢字の書き取りは10問出題します。ことばの問題もあります。

理科

4分野（物理・化学・生物・地学）からまんべんなく出題します。設問は選択式と記述式の併用型です。基本的な問題や、実験・観察についての内容が中心です。また、身近な生活のなかで見られる事象や環境問題、新聞・ニュースにも関心を持ってください。

社会

大問は3題で、3分野（地理・歴史・公民）からそれぞれ出題します。いずれの分野も日本に対する事柄が中心です。各分野とも基礎的・基本的な知識を問う問題が中心ですが、地図や資料を読み取る問題や思考力を問う問題も一部出題されます。

栄東中学校

算数

入学後の数学指導の観点から「規則性」等の数の性質や「図形」を出題します。この単元は、合格者と不合格者の正答率に最も差が出る問題です。A日程・B日程入試では、**1**小問集合の出題数を多くしています。また、**2**以降の(1)も基本的な考えを問う問題になっており、比較的点数が取りやすくなっています。また、東大特待入試では記述問題や図示する問題を出題することがあります。

国語

漢字や語句などの知識分野で、配点の2~3割程度を出題します。単純に知識を問う問題もあれば、その場で思考をはたらかせて解く問題もあります。漢字は、書き取りの形式で出題します。語句は、文中の空欄に語群から選んだことばを当てはめる問題を出題します。文章題は、原則として、文学的文章と説明的文章の2題構成となっており、文章の総字数は約9000~1万字程度です。解答形式は、抜き出し・選択肢・記述が混在しています。また、記述式の問題では、本文中から正解を読み取って表現する問題だけではなく、自分の経験を踏まえて意見を記述するなど、「自分で正解を創る」問題を出題することがあります。

理科

各日程ともに、物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。それぞれの分野に関する観察や実験を題材に、自然の事物や現象について考察していく内容が中心となります。また、グラフや表を読み取る問題もあります。配点の目安は、物理・化学・生物が均等(28%×3分野=84%)で、地学が少なめ(16%)となります。東大クラス・難関大クラスともに出題傾向は同じです。東大クラスの問題には、計算量が多いものが含まれています。

社会

東大特待Ⅰ・東大Ⅱ入試は、昨年度の東大特待Ⅰ・東大Ⅱ入試の出題傾向と比べて大きな変更はありません。地理・歴史・公民の各分野から出題し、配点の割合は2:2:1となります。地理では、日本の地理を中心に、日本とつながりのある国についても問います。歴史では、時代を限定せず、古代から現代までが出題範囲です。人物や時代ごとに主な出来事をまとめ、流れをつかんでおくといよいでしょう。公民では、政治分野を中心に出题しますが、経済・国際分野も出題範囲に含みます。A日程・B日程入試は、試験時間が理科と合わせて50分になっています。原則として、大問**1**を主に地理から、大問**2**を主に歴史から出題します。どちらの大問も、自分の考えを述べたり、出来事などについて説明したりする簡単な論述を出題します。また、地理や歴史にまたがった公民的分野の問題を含んだ出題があります。

芝浦工業大学柏中学校

算数

第1回・第2回とも、大問7題の構成です。①は計算などの基礎力を見る小問、②～④は簡単な文章題や図形の中問、⑤～⑦は文章題や図形の問題です。途中の式や考え方を記入する問題のほか、答えに至る理由や考え方そのものを文章で表現する問題も出題します。

国語

第1回・第2回とも、大問3題の構成です。①は漢字、②は物語的文章、③は説明的文章で、出題形式・傾向ともに例年とほぼ同じです。物語的文章(70字程度)と説明的文章(70字程度)で、合わせて200字程度の記述問題があります。

理科

第1回・第2回とも、大問4題の構成で、物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。単なる知識だけではなく、思考力・計算力も問います。簡単な記述問題もあります。また、総合的な内容もこれまでどおり出題するので、身近な現象・エネルギー・環境などにも関心を持ちながら、各分野をバランスよく学習してください。

社会

第1回・第2回とも、大問3題の構成で、歴史分野(日本の歴史)、地理分野(日本の地理)、公民分野(政治・経済)から出題します。各分野において、グラフ・表・図・地図などの資料から読み取る問題もあり、新聞・テレビなどでよく報道されている内容も扱います。漢字指定で用語を解答する問題は、漢字で正しく書かないと不正解になります。分野によっては、10～50字程度の文で説明する問題も出題します。ポイントを押さえて、わかりやすく説明することが大切です。

課題作文

人文社会系テーマ(45分・計250～400字)と理数系テーマ(45分・計200～400字)があり、いずれも簡易的な適性検査型課題作文です。文章を中心に、表・グラフ・図などの資料を参考にしながら解答する問題も含まれます。なお、課題作文入試の面接(5～10分)は、人物を確認するためのもので、特に対策をしなくても答えられる内容です。

昭和学院秀英中学校

本校の入試問題は、どの教科も各分野からまんべんなく出されます。ですから、領域や単元で出やすい・出にくいというものはありません。むしろそのようなことより、「基礎的・基本的」な内容の知識をしっかりと習得していることと、「自分の頭で考える習慣」を身につけることが重要です。

算数

3 回の入試とも大問が第 1 問から第 5 問までである構成です。出題傾向は例年どおりと考えてください。第 1 問と第 2 問は小問集合です。第 1 問は代数、第 2 問は幾何からの出題です。基本的な問題を中心に、いろいろな分野から出題をしています。考えさせるような問題を出題することもあります。

第 3 問以降はいくつかの小問を持つ大問です。平面図形、立体図形、数の性質（整数、場合の数、数列、規則性）の範囲のなかから多く出題される傾向があります。特に図形問題は頻出の範囲です。しっかりと対策をしてください。大問の問題レベルは標準レベルを考えています。大問のはじめの方の問題は、比較的基本的なもの、次の問題のヒントになるものが多いです。確実に解けるようにしてほしい問題です。

午後特別入試のレベルに関しては、ほかの 2 回のテストとほぼ同じです。大問のうち 1 題が難しくなる場合や問題数が少し多くなる場合もあります。

国語

読解は説明文と小説の大問 2 題の構成ですが、今後エッセイの出題もあり得ます。論理的な文章と文学的な文章の組み合わせだと考えるとよいでしょう。知識問題は、独立した大問を置いて問います。

問題文の出典は、現在活躍中の作者のものがほとんどですが、昭和時代の作品や、外国文学の場合もあります。論説・説明文は、科学・言語・哲学・歴史など幅広い分野から、小説・物語・伝記は、主人公が小学生・中学生であるものが中心となります。

どのような文章にも、読者に伝えたい内容が必ずあります。それを受験生がしっかりと受け止めているかを測るために、その文章に最も適した問い方をします。設問内容は多様ですが、説明文では論旨展開の理解を問い、小説では状況や登場人物の性格・行動などからめて心情を問うものが中心となります。

具体的には内容の読み取り、適語（熟語・接続語・副詞など）・適文補充、指示語の内容などを選択肢から選ぶ、本文中から抜き出す、制限字数内で記述するなどです。最後の設問で、全体の要旨やあらすじを振り返らせることもあります。知識問題では漢字の書き取り・慣用句が中心ですが、漢字の読みやことわざについて問うこともあります。

午後特別入試については、漢字の読み・書き取りと、図表を含む文章を読んで要約するなど、論旨を文章でまとめる問題が出題されます。複数の図表やテキストの中から必要なものを選び、ある程度まとまった量の字数で表現することに慣れておくとよいでしょう。

理科

出題の狙いは、小学校で学ぶ理科の内容と、身近な自然現象に関する知識の習得度や理解度を見ることです。また、理科に対する興味や関心の深さも、これらに関連していると考えています。出題範囲は、小学校理科の全範囲、「物質・エネルギー」と「生命・地球」を主とします。そのほかに、ニュースや新聞で取り上げられた事柄や、日常生活における知識についても、学齢に相応の内容のものは出題の範囲として考えています。

主な出題形式は、自然現象やデータについて読み取ったり、小問による誘導に従ったりしながら解答していくものです。各大問は、基本問題や発展問題の小問を含みます。発展問題では、時事問題、データを読み取る問題、描画や作図で解答する問題などがあります。

次に、出題の傾向についてです。「物質・エネルギー」からは「物質の性質とその特定」や「水溶液の性質」など、実験をテーマにした問題が多く、物質の性質などの知識、計算問題や実験装置に関する問題も出題します。また、「力のつりあい」「振り子の運動」など、自然現象とその法則性を問う問題も出題しています。これらの問題では、実験や設定について読み取り、続く問題に答えるという特徴があります。「生命・地球」からは、「生物の生態や分類などの知識問題」「個体数の変化などのデータからその原因を問う問題」「動物・植物のつくりに関する問題」などを出題しています。

社会

本校の社会の出題については、社会に興味を持てるまで、繰り返し勉強し、基本的なことを正しく理解し、記憶できているかどうかを非常に重要なことととらえています。地理・歴史・公民の各分野から幅広く出題されるため、偏りのない、バランスの取れた学習の結果が求められます。入試が2回ありますが、2回ともほぼ同じ配点です。

※歴史約 50%、地理約 30%、公民約 20%

※漢字は3分野すべてにわたり、正誤を重要視する

※1～2行の記述問題あり

配点の最も多い歴史分野では、すべての時代が対象になります。時代ごとの問題だけでなく、テーマ別にいくつかの時代にまたがって出題することもあるため、どこかの時代だけを好んで勉強するのではなく、古代から現代まで幅広く勉強してください。漢字ミスが最も目立つのが歴史の問題です。歴史の用語は漢字で正しく書ける必要がありますが、惜しいミスが毎年多く見られますので気をつけましょう。

地理の分野では、都道府県名や自然の地名、地形の特徴などの基本的な知識を問う問題に加え、地図・グラフ・統計を読み解くことにより、じっくり考え、論理的に思考すると答えにたどりつくような問題もあります。白地図を使って基本的な知識を確認すると同時に、気候や産業・地形などについては、「なぜそうなるのか」を考えながら学習を進めてください。また世界地理についても、基本的な事柄は出題しますから、日本との関わりの深い国や地域について、参考書などを使用して学習しておく必要があります。

公民の分野では、基本的な知識を問う問題と、時事問題が出題されます。政治に関する問題が比較的多いですが、時事問題では、学校では学習しない内容も含めて出題しますので、難しいものもあると思います。日々のニュースや日常の出来事に関心を持つことがとても大切です。

西武学園文理中学校

算数

試験時間は50分で、配点は100点です。中学で学習する数学では、法則性などについて論理的理解を深めていくので、その前提として計算を正確に速くできることが大切な要素となります。4教科入試と特待入試で問題は異なります。

4教科入試では、() を含む計算を正確に行うことが要求されます。応用問題も複雑なものはありません。テクニックに頼らず、順序良く解いていけば、法則が見えてきて正解にたどり着けます。特待入試では、少し難しい応用問題を出しますが、全体を把握する、多方面から考えるなどの工夫をすれば解答の糸口が見えてきます。①・②は小問集合で、計算を中心に基礎的問題を出します。③～⑤は応用問題です。図形(平面・立体)、速さや濃度、グラフの利用など、さまざまな分野から出題しますが、そのうちの小問(1)は基本的な問題です。

国語

試験時間は50分で、配点は100点です。国語は、他人とのコミュニケーションに必要なのはもちろん、みずからの頭で思考を巡らす根幹ともなるものです。その意味で、ことばの基本的な使い方や、ことばで表された気持ちの読み取りなどに重点を置いた問題を出題します。接続詞や副詞など文法事項を含め、正確なことば遣いができるかを問います。また、登場人物の立場に立った心情の変化や作者の思いを問う問題も出します。

①は説明的文章(接続詞や副詞など文法に関する適語補充、キーワードの言い換えなど)です。②は文学的文章(登場人物の心理変化、作者の言いたいことの全体把握)で、③はことわざ・故事成語など(空欄補充や意味を問う問題)です。④では、学校で習ったり使ったりする漢字・ことばを中心に問題を出します。「とめ・はね」をきちんと書いてください。

理科

小学生の段階で身につけておいてほしい基本的な知識や理屈、理学的なものの考え方を問う問題を出題しています。日常生活のなかで出会う理学的事柄に関心を持ち、日ごろから「なぜ・どうして」という疑問を大切に学習してください。物理・化学・生物・地学の各分野から、まんべんなく均等に基本的な問題を出すので、得意な分野から取り組むなどの工夫をしてみてください。

①は物理的問題(乾電池や電球の電気、ゴムやばねの力、光の性質など)、②は化学的問題(物の溶け方、水溶液の性質、気体の発生など)、③は生物的問題(昆虫や植物の生活・成長、季節や環境とのかかわり、からだの仕組みなど)、④は地学的問題(太陽・月・星の位置の変化、天気の様子、地層、火山や地震の特徴など)となっています。

社会

中学では、「覚える」勉強から脱却して、「なぜ・どうして」を考える、より深い学習をすることになります。日ごろから「なぜ・どうして」という疑問を大切に学習してください。従来どおり歴史・地理・公民からまんべんなく出題します。また、歴史・地理・公民の分野

の枠にとらわれない「融合問題」も出題しており、そこでは論述があります。

※理科と社会は合わせて 60 分で、配点は各 60 点です。時間配分についてはあらかじめ考えておくとういかに思います。試験会場には時計を必ず設置しますので、「何時何分になったら次の教科を始める」と決めておくのも一つの方法です。

専修大学松戸中学校

算数

①では計算問題の小問を4問出題します。②は特殊算、数や図形の基本的な性質を問う問題、単位の変換などの小問5問です。③から⑦までは文章題で、グラフを読み取る問題、規則性を見つける問題、図形の問題などを出題します。最後の⑦は思考力・判断力・表現力を問う問題です。

国語

例年どおりの傾向で、大問3題を出題します。①は漢字の読み・書きを合わせて10問。②は物語文、③は説明文です。レベルは中学入試として標準的で難解な問題はなく、ことばの問題、文法の問題といった知識問題も文章のなかから出題しており、総合的な国語の力を試すものになっています。文章の内容もそれほど難しくはないので、スムーズに読み進められると思います。解答方式については、記号の選択や文章中からの書き抜きが多いですが、自分のことばを使って答える記述式の問題も出題します。

理科

形式・難度とも例年と変わらず、標準的な問題です。大問は、物理・化学・生物・地学の4分野を各1題と、小問集合が1題で、各分野からまんべんなく出題しています。表やグラフを読み取って答える問題、絵やグラフを描く問題も出題します。

社会

難度は例年どおりで、基礎知識を問うものが中心です。大問は総合的な社会（地理・歴史・公民の全分野）が1題、地理的分野が1題、歴史的分野が2題、公民的分野が1題の5題です。各分野とも、基礎知識をもとに自分で考えて「定められた字数でまとめる」練習をおこなしましょう。また、「グラフや表を読み取る」学習もしておいてください。「時事問題」も直接的または間接的に出題します。秋ごろまでのニュースや話題になったことについても調べておくとい良いでしょう。総合的な社会の問題では「地形図などの地図を読み取る」学習をおこなしましょう。日本とかかわりの深い国や国際問題などについても学習しておくことをお勧めします。

麗澤中学校

算数

第1回から第4回まで共通で、問題文で問われていることを的確に読み取ったうえで、素早く正確に計算できる力、文を数式や図に直して視覚化（イメージ）できる力、常に正しさを実験して確かめることのできる力を見ます。計算力を高めるには、毎日計算問題を解く習慣が必要です。たとえば1日1回、決まった時間に必ず問題を解くようにしてみるとよいのではないのでしょうか。文を数式や図に直すためには、問題文が伝えたい情報を漏れなく読み取ることが必要です。まずは問題文から読み取ることのできた情報を箇条書きにして、それを数式や図に直す練習をしてみましょう。これを繰り返せば、必ず文章題に強くなります。また、具体的に数値を代入してみたり、可能性のあることを書き出してみたりすると、次の流れが予想できるものです。ふだんの学習のなかで、困ったときは地道に書き出してみることを大切にしてください。

以上の力は中学入学後、算数から数学へと学びが進んだときにも必要となります。本校の入試問題を通して、一足早く「数学」の楽しさを味わってもらえればと思います。

国語

第1回・第2回では、漢字を正確に読み書きする力、説明的文章の論理的読解力と論理的思考力、物語的文章の人物の心情を推し量る力を問います。学習方法のヒントは、漢字を「正しく」「はっきり」書く練習をする、説明的文章や過去問の文章をじっくり読む、物語的文章では心情を表すことばをチェックしながら読むことです。漫然と問題演習をこなすのではなく、正答にいたる過程を一つひとつ明確に理由づけしながら学習する姿勢を大切にしましょう。第3回・第4回では、教育漢字のなかから、読み書きの問題を出題します。説明的文章と物語的文章の本文では、第1回から第4回まで共通する大きなテーマが設定されています。限られた時間内に、ある程度まとまった文章を正確に読み取り、問われていることに的確に答えるためにも、ふだんから使えることばを増やすこと、そして大人が読むような文章にも挑戦することを大切にしてください。また、文章以外に詩や絵、漫画などを読解する問題も出題することがあります。このような問題でも、説明的文章の読解と同様に、詩や絵などから重要な情報を正確に読み取り、理解する力を求めます。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。いずれの分野も、基礎的事項が理解できているかを確認するような内容に加えて、「読解力（文章・図表）」「論理的思考力」「処理能力（計算・グラフ作成）」を測る問題も出題します。その狙いは、最小限の理科の知識を用いて、総合的な理科の力、知識を運用する力を判断することです。「解けない問題は出題されない」という大前提に立ち、「どのようにしたら解けるのか?」「出題の意図は何であるのか?」を演習時から意識することが大切です。一つの考え方にとらわれることなく、多面的な視野と、紙面上でも「トライ&エラー」を繰り返す探究心を持って、日ごろから理科の問題に取り組んでください。「科学への興味・関心」を判定するために、「科学時事」に関する問題も出題します。最新の科学の世界に、ぜひ興味を持ってください。

社会

単に地理・歴史・公民の知識を問うのではなく、リアルタイムで生きる社会とのかかわりを意識することを重視します。社会科で学習した内容・知識を実際の生活のなかで生かしていく力を問います。図・グラフ・史料を読み解く力、そして読み解いた事柄を複合的に考察して答えにたどり着く力を身につけましょう。新聞・ニュース・インターネットなどを通じて、時事的な事柄についてもアンテナを巡らし、社会の諸問題に関心を持って学習するよう心がけてください。社会の語句については、特に漢字で書くことを指定された場合を除き、ひらがなで解答しても構いません。一方で、漢字で書くように指示されている語句は、正しい字で書けるように繰り返し書いて覚えるようにしましょう。

英語

小学校での英語教育が必修化され、ますますコミュニケーションを図る基礎となる英語力の習得が求められています。ただ単語や文法などの知識が多だけでなく、それを上手に活用することも重要になってきています。そこで本校では、受験生の英語力を総合的にじっくりと測るために、リスニングとリーディングを中心とした総合問題を出題しています。リスニングでは、できるだけ実際のコミュニケーション場面を想定し、スピードのある英問英答や長めの英語の内容把握問題など、さまざまな形式で出題する予定です。リーディングでは、知識の習得だけでなく、それを活用することをめざし、読みながら資料を参照する、英文をもとに簡単な計算をするなど、さまざまな技能を統合した問題を出題します。こういった問題を解くには、十分な処理速度も必要です。日ごろから英検®3級～準2級レベルの過去問題や本校の過去問題に挑戦しながら積極的に英語に触れ、実力を磨いてください。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。